

統計グラフ全道コンクール 5作品が入賞

日司小学校が学校賞！

北海道統計協会が主催し、毎年開催されている「統計グラフ全道コンクール」で、美国、入舸、日司の各小学校児童から4作品と一般から1作品の計5作品が入賞、また日司小学校が学校賞を受賞し2月26日、各小学校で表彰伝達式が行われました。

表彰伝達式では、川井順應町統計調査員協議会長から表彰状と記念品がそれぞれ手渡されました。

昭和28年より実施され、統計についての理解と統計の表現技術の向上に役立てることを目的に、今年で55回目を数えるこのコンクールには、道内の小学生から一般まで、298点が応募、町内では3校から6作品、一般から1作品の計7作品の応募がありました。

なお、入賞作品については、次のとおりです。

▼第1部（小学1・2年生）

特選 杉野 弘幸くん（日司1年）
杉野 耀一くん（日司2年）
（以上2人の合作）

佳作 西川亜紗加さん（美国2年）

▼第2部（小学3・4年生）

佳作 大坂 朱音さん（日司3年）

杉野 隼哉くん（日司3年）
吉田 拓海くん（日司3年）
（以上3人の合作）

▼第3部（小学5・6年生）

特選 大坂 航太くん（日司5年）

佐藤 舞祐さん（日司5年）
佐藤 辰哉くん（日司6年）
吉田 美濤さん（日司6年）
（以上4人の合作）

佳作 小原 智也くん（入舸5年）
佳作 西川 里佳さん（美国町）

▼第5部（二般）



学校賞を受賞した日司小学校

小原智也くん▶
（入舸小）



▼西川亜紗加さん
（美国小）



卓越した技能が評価 佐々木宏さん 菅原明彦さん

優良技能者表彰

第40回後志管内技能者研修大会が3月9日、京極町公民館で開催され、優秀技能者として、

佐々木宏さん、菅原明彦さん（ともに美国町）が後志地方技能尊重運動推進協議会長表彰を受賞しました。

これは、技能者の社会的地位、技能水準の向上、地域産業の振興に尽力された方々を表彰するもので、今年度は、後志支庁長表彰3人、後志地方技能尊重運動推進協議会長表彰16人の計19人の方々に對し表彰状が伝達されました。

佐々木さんは、昭和33年から現在まで49年にわたり、菅原さんは昭和42年から39年間にわたり、ともに建築業に従事し豊かな知識と経験で優れた技能を発揮するとともに、町技能士会会員として多様な分野にわたる地域貢献、後継者の育成に力を注いできました。

この受賞を心からお祝いするとともに今後の更なる活躍を期待いたします。



▲佐々木宏さん



▲菅原明彦さん

東しゃこたん漁業協同組合積丹支所

余別漁港に冷凍・冷蔵施設完成

東しゃこたん漁協が実施主体として余別漁港内に建設していた冷凍冷蔵施設が2月29日完成し、3月8日から稼働を始めています。

を主要目的として建設されました。

これによりエビかこのエサの安定供給が可能となり、漁家経営の維持安定が図られることとなります。

完成した施設は、これまでエビかこのエサとしていたスケトウダラの価格の高まりから漁家経営を圧迫し始めていたことを受け、スケトウダラに代わるエサとして町の主要魚種の一つでホッケを保管して活用すること

また、未利用資源であった小ホッケをエサ用として活用することで、価格安定にもつなげていきたい考えもあり、安定し効率性の高いエサの供給により漁家経営を支える施設として威力が発揮されることが期待されます。



施設概要

総事業費	7,713万円
規模・構造	鉄骨造 1階建
総床面積	188.1㎡
うち冷蔵室	53.39㎡
凍結室	21.19㎡
冷蔵庫	30トン
冷凍庫	3.6トン

スノーモービル乗り入れ 禁止を呼びかけ 町と石狩森林管理署が 協働で看板設置

町と石狩森林管理署は、国道229号沿いの積丹岳登山道入口に2月22日、町有林・国有林へのスノーモービルの乗り入れ禁止を呼びかける看板を設置しました。昨年3月に発生した積丹岳雪崩事故により、スノーモービル利用者の4人が亡くなったことと、一般の冬山登山者への影響、また林木育成等の観点から、町と同署が協議を進めてきたもので、看板は高さ21cm、長さ150cmサイズで、町と同署の連名により「町有林と国有林へのスノーモービル乗り入れ禁止」と表示。

また、看板は同署職員の手作りでもあり、関係者は「看板設置が雪崩事故防止に役立てば」と話していました。



河岸悟郎さん(美国町)に

北海道社会貢献賞(地方自治功労)

平成19年度社会貢献賞表彰式が3月3日、札幌市ホテルポールスターで行われ、河岸悟郎さん(美国町)に高橋はるみ北海道知事から表彰状と記念品が贈られました。

を通して町の発展に尽力されてきました。

河岸さんは、昭和57年に積丹町議会議員に初当選以来、平成17年まで6期23年余りを議員として活躍され、地方自治の振興

特に平成9年から8年間、町議会議長として、住民福祉、文教施設の整備、商工業の発展など広い分野にわたり町の振興発展に寄与し、地方自治の確立に多大な貢献が認められ、この度の受賞となりました。

この度の受賞を地域をあげて

心から祝福するとともに、ますますのご活躍を祈りたいと思います。



日司小学校児童が

地域特産品 ノリ採り体験

日司小学校（嶋田耕司校長）の児童8人全員と教職員は3月6日、近くの海岸で岩ノり採りの体験学習を行いました。総合的な学習の一環として、この時期に食卓に並ぶ身近な存在であるノリの製造過程を知りたいという児童の意見から全校での取り組みとしたものです。

好天ながらも浜風の吹きつける肌寒い中、地元でノリ採捕免許をもつ大坂ノブさんの指導のもと、かぎと呼ばれる道具を片手に、岩場に張り付いたノリをかぎでひっかけて手でむしり採ったり、素手で布ノリを採ったりし

て次々と袋に詰めていきました。

採ったノリは厚さや形を整えながらすだれにうち、乾燥させた後、ノリについた石をとる作業を行い、製品化までの一通りの製造過程を経験しました。

3月13日の授業参観日では、日司町の人口推移やほっけ漁、福祉体験など児童がそれぞれ取り組んだ内容をまとめた発表会が行われ、ノリの製造過程をまとめた大坂朱音さん（3年）は、「何気なく食べていたノリができるまでの大変さがよくわかりました。養殖ノリにはない香りと味がとても好きです。完成したノ

リは焼いて醤油をつけごはんのせて食べたいです。」と話してくれました。

同校の嘉山嘉紀教頭は、ノリ作りは多くの労力と手間をかけた地域の特産品。先人からの知恵が詰った厳しい冬期間を過ごすための栄養源で、子どもたちにとって貴重な体験となったのでは。」と話していた。



積丹観光を売り込め！ 国内外旅行業者商談会でPR

海外の旅行業者向け商談会「北海道観光ビジネス・フォーラム2008」が2月25日・26日に、首都・関西圏向け商談会「ゆとりツーリズム北海道キャンペーン」が3月3日に、それぞれ札幌市で行われ、道内市町村や観光協会、観光関係者が北海道観光の魅力を売り込もうとPR合戦が繰り広げられました。



で栄えたころの漁模様や日本の渚百選「島武意海岸」や「神威岬」、天狗の火まつりなど自慢の景勝地やイベントの模様を映像で流し積丹観光をPRしました。

駆け抜けた6年間 「積丹町野球少年団」魂は永遠に 古平野球スポーツ少年団と合同チームで

3月1日、積丹町野球少年団「ありがとう会」が開かれ、父母やOBなど約60人が参加しました。平成14年から再始動していた積丹町野球少年団ですが、現在部員5人と単独でのチーム編成が困難な状況となり、「試合がしたい。」という子どもたちの強い気持ちを受け、今年から古平野球スポーツ少年団と合同チームとして活動していくこととなりました。大保勇剛後援会長は「たくさんの方々を支えられて、楽しく充実した6年間でした。今後も変わらぬ声援を。」と話して、最後に6年間監督、コーチとして指導してきた、河野靖監督に花束が贈られました。周りから



は「残念だけど、積丹の野球を忘れないで。」と惜しむ声が聞かれました。